

二・三の提案

(東京) 森岡清美

研究に関する提案ではないので恐縮ですが研究通信の利用について提案をします。この前のアンケート特集号は大変な好評でした。ですから編集部ではもう企画を進めて

おられるのではないかと思いますが、この種の特集号のほかに、各地区の研究活動に関する特集をつくつたらどうでしょうか。誰々がどの地域でどのようなテーマについての調査研究をしているかを地区毎にまとめて報告すれば、研究会全体の動きが比較的容易に理解されるばかりでなく、かねてから提唱されている地区毎の協同研究の実情がわかり、またそれを刺戟することにもなると思います。大学が集中している地区では大学毎に、そうでもない地区では県毎にレポーターを委嘱するのも一法でしょう。

次に、会員の業績が出したい(あるいは時期を限つて)編集部に報告し、それを通信に連載ないし特集としたらどうか、というのが第二の提案です。そうすれば時機を失せず購入することもできるし、また抜刷があればそれを割愛していただけないか照会することもできて、自分の研究領域の文献を集め易くなります。論文の筆者としても、本当に読んでくれる人、是非にと所望してくれる人に抜刷をあげてこそ心の満ちる思いをするもので、また、村研年報の研究動向欄を担当する人の苦勞もそれによつて著しく軽減されましょう。

第三に、戦後夥しい数の報告が出ましたがわれわれアプレゲールは昭和十年代の論文の読み方が足りないように思われます。軽視するからでは決してありません。読みたくてもその雑誌が手に入らないので読みようがないというのが実情です。協同研究協同研究といつても読むべきベインシツクな研究を読んでいるのではない、足並が乱れるのも当然のこと

すから、われわれの共通の広場をより一層広げる意味でも、戦前の論文の選集をつくることを提案するものです。有賀先生は「日本婚姻史論」と「村落生活」の二冊に戦争の主要な論文を集めて下さつたので、お互大いに便益を蒙つていますが、まだその外に有賀喜左衛門集というのができましよう。勝手にお名前をあげて失礼ですが、小山隆集、喜多野清一集、及川広集など何冊かの選集ができるのではないのでしょうか。先生方には御予定があまりでしようから、こんな提案をすることは御迷惑かもしれませんが、もしこうした一連の選集が出版されたら、研究の推進のためにまた演習テキストとしてどれだけ有益であるか分りません。会員で相当数の予約を確保すれば出版も困難ではないと思ひますがどうでしょうか。明治史料研究連絡会の明治史研究叢書を見ると羨ましくなるのは私だけではないと思ひます。戦前の業績に限る必要もなくまたテーマ別に編集した方がよいかも知れません。ともかく、そうした企画と連絡のためにもこの紙面が有効に利用されてよいのではないかと思ひ、敢て提案しました。